

2016.3.27 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー

2016年

< 聖化の豊かさを味わう > 「聖化の説教」

「主の手に陥(おちい)る」

中目黒教会・竿代照夫牧師

「神への生贄は砕かれた魂。砕かれた悔いた心。神よ。あなたはそれを蔑まれません。」(詩 51:17)

はじめに：

ダビデの信仰から「神の前に砕かれる」姿勢を学びたい。

1. 人口調査 出来事の背景

- ・ダビデはその晩年に、(歴代によれば)サタンの唆しに乗り、(サムエルによれば)主の怒りに触発されて人口調査を行った。
- ・人口調査自体は悪くはなかったが、王国の強勢を誇ろうとする自己満足的傲慢の動機が問題。
- ・ダビデは、人口調査の後、良心の咎めを感じた。これは、彼の鋭敏な良心を示す。

2. 刑罰の宣告と選択肢

ダビデ流浪の時代からの助言者である預言者ガドが遣わされ、三つの罰の選択肢を与える：

- 七年間の飢饉
- 三か月間の逃亡生活
- 三日間の疫病

3. 神の御手に陥る

三つの選択肢はどれも苦痛であり難儀。それでダビデは、「御手に陥る」と宣言する。

それは；

自己主張の放棄：

軽率な行動が招く深刻な事態に直面して、その刑罰形態の選拓を放棄した。

完全に砕かれる：

責任を全面的に認め、どんな罰も甘受すべく自分を差し出した(詩 51:17)。

神の憐れみへの信頼：

厳しく罰し給う神は、同時に憐れみを加え給うお方であると信頼した。

神に直接扱われたいという願い：

自分の面子やプライドを保ちながら問題を解決するのではなく、神の審判が見える形で直接下るよにという気持ちを現わした。砕かれることを学ばなかったサウル王と比較せよ(1 サムエル 15:22)。

4．刑罰の実行と憐れみ

神は刑罰を加えたが、苦悶するダビデを憐れんで刑罰を「思い直された」(16 節)。民を打つ御使いはダビデの訴えの故に災いを中止した。ダビデはその土地を購入し、神殿用地とした。エルサレムの神殿は、神の憐れみの記念塔となった。

おわりに：

詩 51：17 は真の宗教のエッセンスである。「主の御手に陥る」恵みを捉えよう。